

3－（１） クリニカルラダー（臨床実践能力習熟段階）

レベル		クリニカルラダーⅡ（２年目）	クリニカルラダーⅢ（３～４年目）	クリニカルラダーⅣ（５～９年目）	クリニカルラダーⅤ（１０年目以上）
レベル毎の定義		標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択し QOL を高めるための看護を実践する
看護実践能力		評価指標	評価指標	評価指標	評価指標
ニーズをとらえる力	目標	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
	行動目標	☐ 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から、ケアの受け手に必要な情報収集ができる ☐ 得られた情報をもとにケアの受け手の全体像、課題をとらえる事ができる	☐ 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から、ケアの受け手の個別性を踏まえて必要な情報収集ができる ☐ 得られた情報から優先度の高いニーズをとらえる事ができる	☐ 疾病の予後と治療による影響や、退院後の生活を予測した上で、家庭内での役割や仕事内容、疾病に対する思いを意図的に焦点化し確認したうえでニーズをとらえることができる ☐ ケアの受け手からの訴えがあった場合、原因としてあらゆることを想定して、体内で起きている現象を考えながら、意図的に観察しアセスメントできる	☐ 複雑な状況や多様なニーズを捉え、必要な介入を判断できる ☐ 疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測し、ケアの受け手、または家族の価値観と擦り合わせ、多様な側面からニーズをとらえることができる。 ☐ 地域全体を俯瞰して、ニーズに対して不足している機能に気づき、他施設などに働きかけることで解決を図る
	実践例	☐ 自立して多職種の基本的な情報を含めた診療記録上の必要な情報を収集できる ☐ 患者の状態に合わせてバイタルサインを観察し、フィジカルアセスメントができる ☐ 患者の顕在化している身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面に関連づけて考えることができる ☐ 患者の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から、全体像を考慮した標準看護計画を立てることができる	☐ 診療記録上だけでなく、多職種の情報を含め患者の個別性を踏まえた情報を収集することができる ☐ 患者および家族の希望も踏まえて、入院生活や退院調整に必要な情報を得ることができる ☐ 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から全体像を把握し、看護理論を用いて個別性のある計画を立てることができる	☐ 自立して多職種の基本的な情報を含めた診療記録上の必要な情報を収集できる ☐ 患者の状態に合わせてバイタルサインを観察し、フィジカルアセスメントができる ☐ 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から全体像を把握し、看護理論を用いて個別性のある計画を立てることができる	☐ 患者および家族の希望も踏まえて、入院生活や退院調整に必要な情報を得ることができる ☐ 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から全体像を把握し、看護理論を用いて個別性のある計画を立てることができる
ケアする力	目標	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手の状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
	行動目標	☐ ケアを実践する際、必要な情報を得ることができる ☐ ケアの受け手の個別性を考慮しつつ、状況に応じた看護計画が立案できる ☐ ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	☐ ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる ☐ ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知し、ケアの方法に工夫ができる	☐ 疾病の予後と治療による影響、生活を考慮し、幅広い選択肢の中から適切なケアを提案・実践する ☐ 指導において、予測的な視野を持ちながら、ケアの受け手の反応に応じて段階的に説明することができる ☐ 急変時には、原因や今後の展開を予測しながら、ケアの受け手と家族への対応と今後の準備ができる	☐ コミュニケーションに長けており、各患者に最適な対応ができる ☐ ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためのあらゆる知見を用い、患者の尊厳を重視し、QOL や生活の可能性を広げるケアを考え実践できる ☐ 急変時には、原因や今後の展開を予測しながら、ケアの受け手と家族への対応と今後の準備ができる
	実践例	☐ 患者の状態に合わせ標準的な看護計画を立案して、ケアを実践することができる ☐ 患者の身体症状の変化を的確にとらえ、妥当な方法をチームに提言できる ☐ 急変時にはBLSを開始し、その後は指示されたケアを実践することができる ☐ 救急・急変時や事故発生時の記録が正確にできる ☐ 自立して看護実践の記録ができる	☐ 患者の生活習慣の情報を考慮し、セルフケア能力の維持・向上のための計画を実践できる ☐ 重症度の高い患者に対しても、早期回復に向けて個別性を踏まえた看護実践ができる ☐ 患者の潜在的・顕在的ニーズを的確にとらえ、優先順位を正しく判断しケアを実践できる ☐ 急変時にはBLSを開始し、その後は指示されたケアを責任持って実践できる ☐ 急変時迅速な行動でチームをまとめ、家族にも配慮することができる ☐ 患者の個別性に合わせたケアを継続して行えるような記録ができる	☐ 患者の生活習慣の情報を考慮し、セルフケア能力の維持・向上のための計画を実践できる ☐ 患者の身体症状の変化を的確にとらえ、妥当な方法をチームに提言できる ☐ 患者の身体症状の変化をより早くとらえ、適切な方法を選択し、薬剤の使用や増減を提言できる ☐ 急変時迅速な行動でチームをまとめ、家族にも配慮することができる ☐ 救急・急変時や事故発生時の記録が正確にできる ☐ 自立して看護実践の記録ができる	☐ 患者の生活習慣の情報を考慮し、セルフケア能力の維持・向上のための計画を実践できる ☐ 重症度の高い患者に対しても、早期回復に向けて個別性を踏まえた看護実践ができる ☐ 患者の潜在的・顕在的ニーズを的確にとらえ、優先順位を正しく判断しケアを実践できる ☐ 患者の身体症状の変化をより早くとらえ、適切な方法を選択し、薬剤の使用や増減を提言できる ☐ 急変時迅速な行動でチームをまとめ、家族にも配慮することができる ☐ 患者の個別性に合わせたケアを継続して行えるような記録ができる
協働する力	目標	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手や家族、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
	行動目標	☐ 看護の展開に必要な関係者を特定できる ☐ ケアの受け手と取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと情報交換できる ☐ 看護の方向性や関係性の状況を把握し、情報交換できる	☐ ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる ☐ ケアの受け手とそのケアについて意見交換ができる	☐ 診療報酬などの社会制度を理解した上で調整ができる ☐ 退院支援において、多様化する退院後の生活の場について、主体的にケアマネジャーと調整できる ☐ 多職種連携カンファレンスにおいては、連携が促進されるようファシリテートすることができる ☐ ケアの受け手に起こりうる課題を予測し、専門・認定看護師などの専門家の関わりを提案し調整できる	☐ 全体を俯瞰し、まわりを動かすことができる ☐ 多職種連携において、病院内だけでなく病院外との複雑な調整ができる ☐ 自施設に不足している機能に気づき、補完するための資源を提案、活用できる
	実践例	☐ 患者の状態について、看護チーム間で適切に連絡・報告・相談できる ☐ 患者にかかわる多職種の役割を理解できる ☐ 疾患の現状、検査結果、治療方針を医師と確認し、看護側の情報を伝えることができる ☐ 状態変化時には、SBAR を用いて報告し、チームにつなげることができる ☐ 多職種間で治療方針を共有し、看護の方向性を分かりやすく伝えることができる ☐ 患者カンファレンスで患者の思いや希望などについて発言し、情報を多職種で共有できる	☐ 患者の個別的なニーズに対応するため、多職種や医療チームにコンサルテーションすることができる ☐ 医療チームやスペシャリストを活用して自分のケア方法を考えることができる ☐ 患者の状態変化時には医療チームの中心となり最善の方法を選択し、迅速に対応できる ☐ 医療チームで退院支援の調整にかかわり、社会資源の過不足についてコンサルテーションできる ☐ 患者・家族が治療に参画しやすいうに工夫し、多職種カンファレンスを開催することができる	☐ 診療報酬にかかわる看護活動を知り、実施できるように連携することができる ☐ 患者・家族が治療に参画しやすいうに工夫し、多職種カンファレンスを開催することができる ☐ 患者の状態変化時には医療チームの中心となり最善の方法を選択し、迅速に対応できる ☐ 医療チームで退院支援の調整にかかわり、社会資源の過不足についてコンサルテーションできる ☐ 退院支援が必要な患者に対し、医師・社会福祉・看護師間で情報共有し、自立への援助を考えることができる	☐ 診療報酬にかかわる看護活動を知り、実施できるように連携することができる ☐ 患者・家族が治療に参画しやすいうに工夫し、多職種カンファレンスを開催することができる ☐ 患者の状態変化時には医療チームの中心となり最善の方法を選択し、迅速に対応できる ☐ 医療チームで退院支援の調整にかかわり、社会資源の過不足についてコンサルテーションできる ☐ 退院支援が必要な患者に対し、医師・社会福祉・看護師間で情報共有し、自立への援助を考えることができる

意思決定を支える力	目標	ケアの受け手や家族の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や家族に、意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
	行動目標	☐ ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認する事ができる ☐ 確認した思いや考え、希望をケアに関連づける事ができる	☐ ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる ☐ ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを理解し、多職種に代弁できる	☐ ケアの受け手やその家族の気持ちを引き出し患者自身が意思決定するための様々な案を提示したりすることができる ☐ ケアの受け手と家族の意思決定に関するゆらぎに寄り添い、支える事ができる	☐ ケアの受け手と家族が自ら決定出来たり考えることが出来るよう、意図的に医療チームを動かし、意思決定プロセスを支援できる ☐ 複雑な意思決定場面において、患者の尊厳を尊重した意思決定のために、適切な資源を積極的に活用し、調整できる
倫理的実践力	目標	看護専門職としての倫理的感性を高める	「看護職の倫理綱領」に基づき看護専門職としての行動や後輩指導ができる	「看護職の倫理綱領」に基づき看護専門職としての行動や後輩指導ができる	「看護職の倫理綱領」に基づき看護専門職としての行動や後輩指導ができる
	実践例	☐ 看護者の倫理綱領を理解している ☐ 倫理的問題に気づき、発言できる ☐ 個人情報保護の重要性を理解し、行動できる ☐ 看護者の倫理綱領をふまえた、倫理事例を例提出できる（締め切り 10/30）	☐ 看護者の倫理綱領に沿って行動できる ☐ 倫理的問題に対し、多職種の価値観を受け入れることができる ☐ 個人情報保護の重要性を理解し行動できる ☐ 看護実践における倫理的問題に気づき、解決に向けての行動や後輩指導ができる ☐ ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いをふまえ、倫理事例検討シートが作成できる（締め切り 10/30）	☐ 個人情報保護の重要性を理解し行動できる ☐ 人々の生きる権利、尊厳を保つ権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利を理解し、行動できるようスタッフ指導できる ☐ 倫理的問題に対して、解決に向けて意図的にスタッフと検討できる ☐ ケアの受け手や家族、医療者の意向が異なる場合において、倫理事例検討シートを作成し、カンファレンスを開催する（締め切り 11/30）	☐ 個人情報保護の重要性を理解し行動できる ☐ 人々の生きる権利、尊厳を保つ権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利を理解し、行動できるようフタッフ指導できる ☐ 倫理的問題に対して、解決に向けて意図的にスタッフと検討できる ☐ ケアの受け手や家族、医療者の意向が異なる場合において、倫理事例検討シートを作成し、カンファレンスを開催する（締め切り 11/30）
自己教育・研究能力	目標	自己の看護観を再認識し、看護の視点を深める	自己の看護観を再認識し、看護の視点を深める	自己の学習課題を明確にし、学会や研修会で得た学びを部署内で伝達・推進できる	自己の学習課題を明確にし、学会や研修会で得た学びを部署内で伝達・推進できる
	実践例	☐ 看護部クリニカルラダーシステムを理解し、目的を明確にして学習できる ☐ 研究主体者として看護研究テーマを決め、看護研究計画書作成および研究に取り組むことができる（1 事例発表）	☐ 事例研究の後輩指導ができる ☐ 看護部クリニカルラダーシステムを理解し、明確な目的を持って学習できる ☐ 学習課題を達成するために、院外研修や学会に積極的に参加できる ☐ 院内外の研修で得た学びを、部署のスタッフに伝達および実践することができる	☐ 看護部クリニカルラダーシステムを理解し、明確な目的を持って学習できる ☐ 看護実践研究テーマを決め、看護研究計画書作成および研究に取り組むことができる ☐ 研究的視点で日常の看護実践を行い、自らの研究課題を見いだすことができる ☐ 先行研究を参考に、看護実践事例を部署の学習会などで報告できる ☐ 院外研修や学会に積極的に参加できる ☐ 学生の実習評価・新人看護師の技術評価ができる	☐ 看護部クリニカルラダーシステムを理解し、明確な目的を持って学習できる ☐ 研究主体者として看護研究テーマを決め、看護研究計画書作成および研究に取り組むことができる ☐ 先行研究を参考に、看護実践事例を部署の学習会などで報告できる ☐ 臨床での研究課題に取り組み、主研究者もしくは共同研究者として発表できる ☐ 自己の専門性を高めるため院外研修や学会に積極的に参加できる
組織的役割遂行能力	目標	メンバーの一員としての役割を果たす	組織の一員としての役割を果たす	部署のチームリーダーとして役割を理解し、行動することができる	部署のチームリーダーとして役割を理解し、行動することができる
	実践例	☐ 看護部の理念・方針・目標を理解し、自己の役割を説明できる ☐ 部署目標、割り当てられた業務を理解し、仕事の優先度をつけている ☐ 自己目標達成のために積極的に行動できる ☐ 業務遂行する上で困難な時は、その他のメンバーに協力を依頼している	☐ 自分の立場での主体性を考え行動ができる（リーダーシップ・メンバーシップがとれる） ☐ 部署目標を意識して行動する事ができる ☐ 学生に対して、看護技術および病態生理の指導ができる ☐ 地域包括ケアシステムにおける自施設の役割を理解し、他職種と良好な関係性を築くことができる ☐ 臨地実習指導者として、対象のレベルに合わせ看護技術および病態生理の指導ができる ☐ 実地指導者などとして、部署の中心的な教育役割を担うことができる ☐ リンクナースなどの活動ができる	☐ チームリーダーとして、病院の基本方針を基に役割が遂行できる ☐ 院内委員会に参加できる ☐ 緊急事態や災害発生時を予測した対応がとれる ☐ 医療安全・感染管理に基づく管理や提案ができる ☐ 地域包括ケアシステムにおける自施設の役割を理解し、他職種連携のコーディネーター的役割ができる ☐ 業務遂行する上で困難な時は、その他のメンバーに協力を依頼することができる	☐ 看護師長と共に部署の目標管理ができる ☐ 変革の推進者となることができる ☐ 院内委員会に参加できる ☐ 緊急事態や災害発生時を予測した対応がとれる ☐ 効果的・効率的に職場環境や療養環境を調整できる ☐ 地域包括ケアシステムにおける自施設の役割を理解し、他職種連携のコーディネーター的役割ができる ☐ 病院・看護部理念・部署の目標を達成に向けて、後輩指導ができる ☐ 目標に向かって行動できるようにチームメンバーに動機付けし、到達に向けて支援できる ☐ 各種マニュアルの基づいたリスクマネジメントの指導ができる

H 3 0 . 4 作成

H 3 1 . 1 改訂

R 3 . 3 改訂